



ろうさい病院つうしん

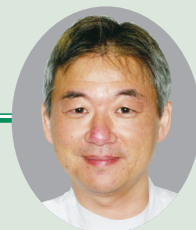
発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6
<http://www.chubuh.roufuku.go.jp/>

TEL: 052-652-5511
FAX: 052-653-3533

救急外来並びに総合内科の現状

副院長 救急部・総合内科部長 丸井 伸行



新しい年度が始まり多くの新人を病院に迎え、この季節が最も活気にあふれる時期だと感じております。

日頃より当院救急外来へ多数ご紹介いただきありがとうございます。当院の救急外来につきましては、従来より名古屋市メディカルコントロールに参加し、幅広く救急疾患を受け入れる努力を続けております。また、診療体制につきましては、従来の日勤常勤務者に加え、新たに卒後3、4年次の救急担当医を配置するとともに、救急外来看護師も増員して速やかな対応を心がけているだけでなく、定期的に救急専門医の指導を受けるなどレベルの向上にも努めております。おかげさまで、平成25年度は3,800台に迫る救急搬送を受け入れることができました。

併せて、地域災害拠点病院としましても、愛知県並びに名古屋市の地域災害計画策定に従い、将来起こりうる地震対策を検討しております。当院は免震（一部耐震）構造となっており、建築上は問題ないと判断しておりますが、津波あるいは液状化など予想される災害に対して、

地域災害拠点病院としての方策を示す必要があると痛感しております。

今後とも救急疾患受入態勢を整えて参りますので、連携医の先生方におかれましては、これからもご指導の程よろしくお願い申し上げます。また、救急外来へ紹介いただく折には、臓器が確定していれば臓器別担当科へ、不確定の場合は救急外来宛てにご紹介いただければ幸甚に存じます。

なお、この4月より「一般内科」を「総合内科」と名称変更いたしました。今般の専門医制度変更に伴うものですが、「どの内科にも属さない」症例の受け皿として、さらに困難症例にも対応できるように今後とも整備、充実させる予定であります。内科新患外来は従来通りですので、臓器別に分類できない症例があれば「総合内科」宛てにご紹介いただきたいと存じます。

最後になりますが、内科新患外来、救急外来ともにより一層柔軟な対応を心がけていく所存でありますので、今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

急がれる認知症の地域連携

神経内科部長 亀山 隆



超高齢化社会が急速に進み、認知症は待ったなしの大問題です。現在、日本における認知症の人口は約400万人、予備軍の人口も約400万人と推計されています。認知症は今後、高血圧、糖尿病に次ぐありふれた疾患となってきます。最も多いのはアルツハイマー型認知症ですが、現在根本的治療法はありません。しかし、薬剤の使用により進行を遅らせることで、脳を活性化させて日常生活能力を維持させる効果が期待できます。また、最近では、糖尿病をはじめ生活習慣病のコントロールが、認知症の発症予防や進行予防につながるということがわかってきました。今後、軽度認知機能障害（MCI）の段階からの適切な介入で、認知症への進展を予防し、遅らせることが期待されており、認知症診療において、かかりつけ医の先生方の役割がより大きくなっていくものと思われます。

家族や介護者を悩ませるのは、BPSD (behavioral and psychological symptoms of dementia) という妄想や幻覚などの精神症状や

徘徊、暴言・暴力などの行動異常で、これはその人の性格や生き方、介護者との関係などの影響で症状が現れます。家族は認知症の正しい理解とケアのコツを知り、介護保険などの社会資源を利用しながら、余裕を持って適切なケアをすることが望まれます。認知症の継続的診療には、その人の個人史（性格、職業歴、生活歴、嗜好）、家族背景、生活環境などを日ごろからよく知り、また、身体的疾患にも対応できる、かかりつけ医の先生が適任ではないかと思われます。専門医は初期の正しい診断と治療方針の決定を担い、かかりつけ医と連携して診療を継続します。

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる社会づくりに向けて、医療のみでなく福祉や行政を含めた地域連携を進めていくことが急務です。多くの患者さんの紹介・逆紹介などを通じて、お互いの診療やケアのレベルの向上を図っていきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

“当院で行っている周術期口腔管理”

歯科口腔外科部長 鈴木 英治



周術期口腔管理が保険に取り入れられてから2年が経過しました。当院でも、手術前の口腔管理をはじめとして、心疾患患者・悪性腫瘍患者の口腔管理に取り組んでいます。

保険適応上は、周術期口腔機能管理とは、『がん患者等の手術等を実施する医師等との連携の下、歯科医師が行う、がん患者等の入院前から退院後を含めた一連の口腔機能の管理の評価や放射線治療や化学療法を実施する患者の口腔機能の管理を評価する。』ものとあります。

当科では、手術対象入院患者さん用の資料を作成して、理解を得られるようにしています。

全身麻酔での手術を受ける患者さんへ

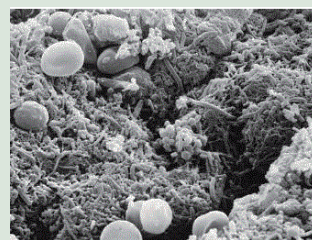
全身麻酔で挿管を行うにあたって口腔内の清掃状況が悪いと、**誤嚥性肺炎**を起こす可能性が高くなります。



口の中のケアをしないと **2倍以上**の確率で誤嚥性肺炎にかかりやすい！！

〈リスクの高い方〉

口腔内の**清掃状況が悪い方**
重度歯周病の方
入れ歯を使用している方
嚥下機能が低下している方



清掃が不良な口腔内には
多量の細菌が繁殖しています

〈予防方法〉

手術前に**口腔内を清潔**に保つことが大切です。術後も口腔内が不潔な状態が続けば、感染症にかかりやすくなります。全身麻酔の術前・術後に口腔内を清潔な状態を保つために口の中のケアを行うことがとても重要です。

問題点としては、当院では年間全身麻酔による手術件数2,000例以上、悪性腫瘍患者・心疾患患者を含めると年間3,000例を超える対象患者が存在することです。限られたスタッフの中で、これらの患者を「どのように診ていくのか、また「退院後の継続的な口腔管理をどうするのか」が大きな課題となっています。

地域医療連携室だより

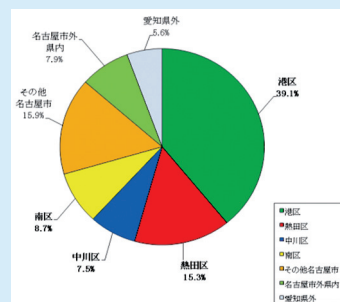
平素より、連携医療機関の先生方には大変お世話になっております。

当院が、登録医の先生方からご紹介いただいた患者さんに対する高度な急性期医療の提供、地域の医療従事者の資質の向上を図るための様々な医療提供を行うことを目的とする「地域医療支援病院」の指定から、3年目を迎えることとなりました。

試行錯誤の地域連携でしたが、多くの先生方の有用なアドバイスやご協力をいただきました。

また、紹介患者さんは、5年連続で前年度実績を上回ることができ、平成25年度も引き続き多くの患者さんをご紹介いただきました。(表1)

改めて、地域完結型医療へのご理解と円滑な医療連携にご協力いただき厚く御礼申し上げます。紹介・逆紹介の患者さんは当院においては、近隣4区で約7割を占めている地域密着型の病院となっています。(表2)



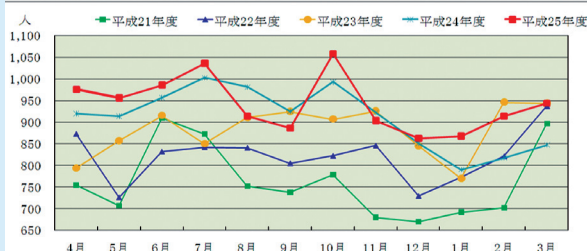
(表2)

その中で、脊椎疾患や内分泌疾患、膠原病、リウマチ疾患の専門治療のご相談については、県の内外を問わず近年多くのご紹介をいただいています。

今年度は、診療報酬も大きく変わり、病病・病診連携の真価が問われる1年と感じています。

一層の信頼とご厚情を賜れるよう、急性期治療の終了した患者さんの逆紹介や、ご紹介いただいた患者さんへの高度な医療とともに、タイムリーな情報提供を心がけて参りますので、引き続きご指導とご鞭撻をお願いいたします。

紹介患者数の推移



(表1)

医師交代

☆辞職 (平成26年3月31日付)

黒田 耕志 呼吸器外科副部長
尾関 貴哉 腎臓内科医師
木田 節 リウマチ科医師
都田 淳 心療内科医師
横井 孝政 神経内科医師
高山 洋平 循環器内科医師
西門 優一 小児科医師
高村 卓志 外科医師
今枝 政喜 外科医師
小早川 晃範 整形外科医師
中村 謙一 産婦人科医師
古林 充里 眼科医師
和田 伊織 眼科医師

☆採用 (平成26年4月1日付)

渡会 敦子 健康診断部副部長

下川 秀彦 呼吸器外科副部長
渡部 百合子 産婦人科副部長
高杉 浩司 リウマチ科医師
小山 明子 心療内科医師
前川 道隆 心療内科医師
松本 慎二郎 神経内科医師
奥村 聡 循環器内科医師
長野 美子 小児科医師
向井 俊貴 外科医師
松本 智宏 整形外科医師
深見 麻里絵 眼科医師
尾関 俊和 腎臓内科医師
片岡 崇 循環器内科医師
北御門 加奈 消化器内科医師
中村 紗矢香 耳鼻咽喉科医師
水野 愛弓 外科医師

治療部両立支援部副部長 (兼務)

呼吸器外科副部長
産婦人科副部長
リウマチ科医師
心療内科医師
心療内科医師
神経内科医師
循環器内科医師
小児科医師
外科医師
整形外科医師
眼科医師
腎臓内科医師
消化器内科医師
耳鼻咽喉科医師
外科医師

溝口 麻子 糖尿病・内分泌内科医師
横井 英人 呼吸器内科医師
和田 裕紀子 呼吸器内科医師
渡辺 充 リウマチ科医師

☆補職 (平成26年4月1日付)

河村 孝彦 副院長
丸井 伸行 副院長
中島 英太郎 総合内科部長 (兼務)
加藤 文一 糖尿病・内分泌内科部長
長坂 暢 検査科副部長
佐野 壘 病理診断科副部長
濱田 卓也 耳鼻咽喉科副部長
総合内科医師

当院の理念

皆さんとの出会いを大切にし、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます。

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

☎地域医療連携室 (平日 8:15~19:30)

052-652-5950 (TEL)

052-652-5716 (FAX)

室長: 加藤 文彦 (院長代理)

藤田 芳郎 (副院長)

事務担当: 今関 信夫・高間 仁美・

内藤 遵子・金井 久実